

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-133	20-013	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
<b>題名（原題／訳）</b>		
Risk for Substance Use Disorders in young adulthood: Associations with developmental experiences of homelessness, foster care, and adverse childhood experiences 青年期薬物乱用のリスク：ホームレス、養護施設、逆境的小児期体験との関係		
<b>執筆者</b>		
Moss HB, Ge S, Trager E, Saavedra M, Yau M, Ijeaku I, Deas D.		
<b>掲載誌</b>		
Compr Psychiatry. 2020 Jul;100:152175. doi: 10.1016/j.comppsy.2020.152175.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
青年期、薬物乱用、ホームレス、逆境的小児期体験、養護施設		32345436
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b>            発育過程の多因子が青年期薬物乱用（SUDs）のリスク因子となることが知られている。本研究では、18歳までのホームレス、養護施設、逆境的小児期体験（ACEs）が最も問題となる青年期の SUDs である多飲酒、喫煙、大麻の問題に与える影響を調査した。仮説はホームレスと ACEs は青年期 SUDs の有意なリスク因子となり、養護施設は防御因子となるというものである。</p> <p><b>方法：</b>            全国を代表するデータとして、全国の縦断研究である Adolescent to Adult Health を用いた。ACEs の評価は CDC-Kaiser ACE 研究、DSM-V SUD の診断は DSM-IV のマニュアルから引用した。SUD 診断は軽度、中等度、重度とグループ分けした。調査に基づいてロジスティック回帰分析を行い、人口統計学的情報を調整した SUDs のリスクを推定した。</p> <p><b>結果：</b>            18歳までに ACEs に加えてホームレスを経験することは青年期の最重度の多飲酒と喫煙、大麻への進展と有意に関係していた。養護施設は SUDs のリスクおよび防御因子のいずれにも関与していなかった。</p> <p><b>結論：</b>            青年期における一般的な SUDs のリスク因子として、成長期のホームレス体験はもうひとつの有害な ACEs という見方もできるものであった。アメリカにおける現在のホームレス問題の拡大を考えると、本研究結果は問題提起に値するものと思われる。</p>		